

アフリカつなぐ虹の架け橋



生涯をアフリカにささげる市橋隆雄・さら 家族のおはなし



製作:市橋隆雄さんを支える会
イラスト: 奥田裕子 他

皆さん地球儀を見たことがありますね。

地球儀では地図ではわからなかつたいろんなことに気付きますよ。

地球ってほんとうに広く大きいんです。でも今は飛行機に1日のれば地球の裏側の国々に行くことができます。今では日本を出て世界の国々でくらしている日本人は100万人もいるそうです。今日は外国に住んでいる、ひとりである市橋隆雄さんのことをお話します。

それでは約50年前に戻るタイムマシンスタート・・・・



ここは三重県亀山市のまちはずれです。小学生の男の子たちが遊んでいました。隆雄くんは子ども達の大将です。。

みんなお腹をすかしています。「あそこのカキがうまそうだぞ」よその家のカキの木にのぼってカキ泥棒です。木に登りカキをとって下に投げるのは隆雄くん、受け取るのはその子分たちです。「こらーつ、おまえたち！」おじいさんのどなり声がひびきました。ポケットにカキをつめこんでいちもくさんに逃げました。

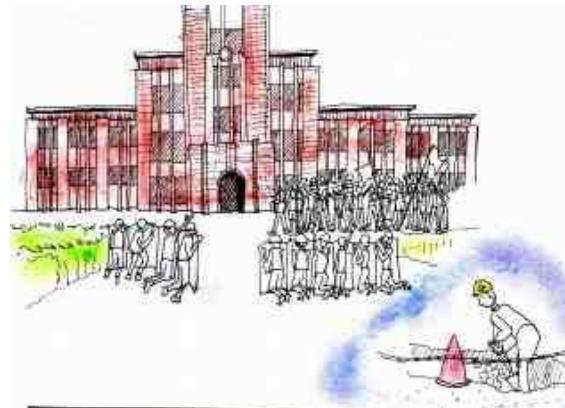
でもみんな貧しかった、この時代にはこんなことをする子どもたちがいるのがあたりまえで大人たちもむかし子どものときに同じ事をしてきたので許してくれました。



時はたち隆雄さんたちは中学生になりやがて高校に行くもの、卒業して都会に働きにいくものと分かれました。お互いのようすを知ることもできなくなりそれぞれが自分のまわりのあたらしい友人とつきあうようになりました。ちょうどそのころには日本は高度成長期といって暮らしが豊かになって家庭にカラーテレビがつき自動車まで買えるようになってきました。仕事がどんどん増えて、お金をかせぐのにみんなが朝早くから夜おそくまで必死で働きました。

たくさんの大学では若い学生と昔からいる先生と考え方があわず対立し授業もできない日々が続きました。学生たちは教室で人生や未来そして死について語り明かしました。でもだれにも「自分はなぜこの世に生きているんだろう」という答えはわかりませんでした。

大学を出た隆雄さんは、人生に悩みいろんなアルバイトで暮らしを立てていました。道路工事や大きな船の底のさび落とし、ビルの窓ふきなどなんでもやりました。そんなときに「青年海外協力隊」といって日本の政府が開発途上の国のおてつだいに若者を募集していたのでアフリカの北にあるエチオピアに農業の指導に行くことにしまし



た。そこでは戦争が起こったり、国の中でお互いが殺しあっていました。

平和で豊かな日本とあまりにも違う暮らし、食べるものもなくあすは生きていかないかもしれない、それでも人々は明るく笑い親切で思いやりがある。これはなぜだろう。若い日の隆雄さんにとって、この体験はその後の人生を決めることになりました。その後エチオピアでは戦争が、はげしくなって隆雄さんは日本に戻りましたが再びアフリカに行く機会が巡ってきました。



こんどはケニヤのナイロビにあるスワヒリ語の学校に行くことにしました。

ここでちょうど一緒になった仲間にその後、隆雄さんの奥さんになったさらさんがいました。「さら」って言う名前はちょっと珍しいですがキリスト教の聖書に出てくる女の人の名前です。さらさんはクリスチャンの家庭に育って、いつかはアフリカのスラムで働きたいという夢を持っており大学を終わってすぐにケニヤのことばであ



るスワヒリ語を学ぶ学校に来たのです。

スラムとは特に貧乏な人たちばかりが集まった地域のことです。そこは汚く病気になって働けない人たちであふれていました。まだこれから的人生をどう生きようかわからなかった隆雄さんにとって希望にみちた、さらさんのひとみは、ひとりわまぶしく輝いて見えました。

隆雄さんたちはその学校でアフリカの言葉やその文化などアフリカの人たちと一緒に生きるために必要なことを学びました。さらさんはナイロビのスラムで働き隆雄さんもそこを手伝ったりしました。その後帰国した隆雄さんは東京にケニヤ大使館がてきたのでそこで通訳と翻訳の仕事をすることになりました。

隆雄さんは教会で洗礼を受けてキリスト教徒となり、さらさんと隆雄さんは結婚をしました。

さらさん 23 歳 隆雄さん 31 歳のときでした。

隆雄さんはキリスト教徒としてどう生きたらよいかということで悩み、そのときひとりの人物に出会いました。その人が「あなたは何をして生きるかと、さがしているけれど、それではいつまでも答えはでない。何をして生きるかよりも自分は誰のために生かされているのかを考えなさい。それがわかればあなたは何をすればよいかがわかる」と言われたのです。



隆雄さんたちのアフリカでの体験、決してそれは偶然じやなく意味があったのだと気付きました。アフリカの人たちに出会ったこと。しかしその人たちはいま非常に貧しく助けが必要だしこから一緒に生きようと決心しました。

でもそれはすぐにはできることではありませんでした。ほんとうにアフリカの人たちと一緒に生きる、それはお金持ちが貧しい人にものにほどこす・・・そんな考えではできない大変なことなのです。

それで隆雄さんはキリスト教の牧師になる決心をしました。4年間牧師の勉強をし病気で身体が動かない子どもたちや心の病で社会で生活できない人たち、重い病気で死を待つだけの人たちと生活を共にしました。それも牧師になる大切な訓練だったんです。

それで1988年39歳のとき牧師となって家族と共にケニヤにむかいました。始めてケニヤに行ってから10年の歳月が経っていました。でもその10年間で学んだことや若い日々のアルバイトの経験がむだなく役に立つ時がきたのです。皆さんの中にもいま悩んでいるひとがいるかもしれません。自分はなぜ学校なんか通っているんだろう。

何でこんなさびしい、つらい日々をおくっているんだろう。自分なんかいらない人間だ、消えてしまいたい。



そんなあなたに隆雄さんは言います。人生には自分の目には、むだでもないと思えることがあるかもしれません。でもそれはいつか実を結びあとで役に立ちます。ただそれは今のあなたには見えていないだけなのです。



ここはアフリカの東部ケニヤの首都ナイロビの空港です。はるばる日本からやってきた家族が降り立ちました。日本で生まれた2人の子どもたち（4歳と1歳）も一緒です。



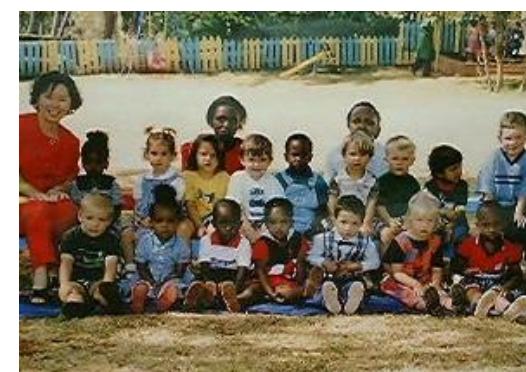
隆雄さんの仕事はキリスト教の牧師で宣教師と呼ばれています。外国（日本）からきた宣教師はケニヤで働いてもお金をもらうことは法律で禁止されています。現地の大学で講師もしますがそれは無料奉仕なのです。ですから家族の生活費はすべて日本の派遣した教会からの仕送りです。

奥さんのさらさんはスラムで幼稚園を開きたいと希望をもっていました。外国で仕事をするのはたいへんです。すべてその国の政府の許しがいります。

さらさんたちは役所に行ってスラムの子ども達の幼稚園を開く許可をくださいと頼みました。でも役所の人はあなた達は外国人だ。スラムで幼稚園を開くのはケニヤ人の仕事だから認めませんと言いました。さらさんたちはがっかりしました。

でも役人はお金持ちの子どもたちに進んだ教育する幼稚園なら認

めようと言いました。アフリカではお金持ちと貧乏な人たちは別の世界にいるくらい大きな違いなのです。収入だって何百倍いや何千倍も違うのです。住んでいる場所、家、着ている服、仕事、子どもたちの学校だってまるで違うのです。貧しい人は一生貧しいし、その子ども達も親と同じ貧しい生活を続けるしかありません。お金持ちは家に何人もお手伝いさんを雇います。貧しい人はそこで掃除や料理をして、お金持ちからもらうお金で暮らすことができますし、その子ども達も食べていけるのです。さらさんたちは考えました。この国は一部のお金持ちが政治をしているうちはよくならない。お金持ちの子ども達はみんなお金持ちになり将来国を治め自分達だけが良い生活を続けられる国をつくっていくだけだ。これではいつまでたっても変わらない。そんな子どもたちに幼い時から、優しい心、助け合う心を身に付けてもらおう。そうすればその子ども達が大人になり政治を握るようになつたら国をもっと良く変えてくれるかもしれません。そうだ、お金持ちだけの幼稚園もいいじゃないか。



こうして幼稚園を開きました。さらさんは幼児教育の経験者ですから

現地の先生達により進んだ指導方法を教えました。こうしてできたキューナ幼稚園は素晴らしい教育をしてくれる幼稚園だと評判が広がりお金持ちの親の子ども達がどんどん集まってきた。なんと国で一番のお金持ち、大統領の孫まで通うようになりました。子ども達には幼いうちから貧しい人たちと一緒に生きること、相手を愛し尊敬し、その人たちのために何をしたらいいのかを教えるようにしています。その幼稚園は日曜には教会となって親たちもその家で働く貧しい人も一緒に集まっています。隆雄さんは牧師ですからみんなに人の生き方を教え導き心豊かに暮らせるようお祈りをします。

隆雄さんとさらさんはアフリカで生涯をささげる覚悟でやってきました。そこで親に捨てられたアフリカ人のふたりの赤ちゃんを自分達の家族にむかえることにしました。1人は生まれたばかりの女の子で栄養が足りず命が危ないほどやせていました。それに母親はエイズという恐い病気にかかっていたようです。

もう1人の男の子はある外国人の家の前に捨てられ寒さの中、奇跡的に助かったそうです。

ふたりとも市橋さんたちの家族にならなかつたら、もうこの世にいなかつたかもしれません。でも2人とも家族のひとりとして愛され、すくすく育っています。

さらさんはこう言っています。「同じ両親から生まれても皆違うの



だから肌の色が違うとか生まれ方が違うとかは違いの内のひとつでしかないと思うんです。だから子どもたちにも3人は私のお腹から生まれたし2人はママじゃない人のお腹から生まれたけど皆パパとママの子どもなの。それは生まれ方が違うだけでみんな私たちの子どもなのよ。」

このような仕事をしてきた市橋さん家族にたいへんな出来事が起こりました。日本の経済が悪くなり今までお金を送ってきた東京の教会がもうこれ以上ケニアを助けることができないから宣教師を辞めて日本に帰って来いと言ってきたのです。お金を送ってくれないと市橋さんの家族は生活できません。養子にしたアフリカ人の2人を含め5人もいる子ども達を学校に通わすこともできません。隆雄さんは困って2000年の秋に日本に来て全国を巡り自分達が今までどおりケニアで活動を続けられるよう援助してくださいと各地で講演やお願いをしました。三重県の亀山市は人口5万人の小さなまちですが隆雄さんの出身地です。隆雄さんを覚えていた中学校の同期生が37年ぶりに何十人も集まりたちまち「市橋隆雄さんを支える会」ができショッピングセンターで募金活動を始めました。毎回多くの皆さんから募金いただきケニアに送っています。また地域のライオンズクラブでも毎年、支援のバザーを開いています。

こうして集められた、お金はもちろん大切です。でもそれ以上



に遠い母国から自分達を支援してくれる人たちがたくさんいる。そのことが励ましとなって市橋さんたちの活動の原動力になっているのです。

市橋さんたちの活動はケニヤの人たちの心を動かし 2003 年に念願のスラム地区への幼稚園もできることになりました。

でもそれは簡単ではありませんでした。親がひじょうに貧しく母親しかいなかつたり字も読めない人が大半です。教材費どころか給食費だって払えない家庭の子がほとんどです。

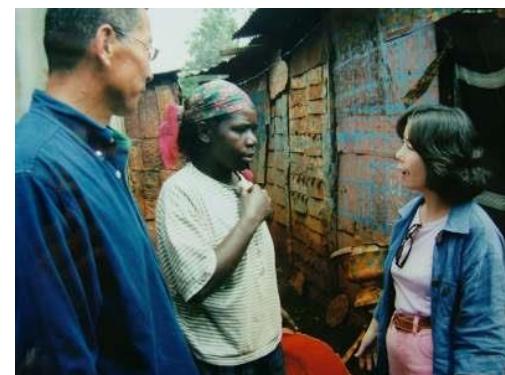
子ども達の健康状態もよくありません。一日一回の食事がやつとで栄養不足で発育が悪く、お腹にはいっぱい寄生虫がいます。その日暮らしの毎日の生活で幼稚園での集団生活もできそうにありませんでした。

先生達の苦難の日々が始まりました。子ども達が規則正しく食べ遊び学ぶ、その習慣がつくまで繰り返し、がまん強く教えました。

さらさんは親に会い、なんとしても給食費を払うようお願



いしました。お金持ちは代わって払えばいいと思うかもしれません。でもそれでは問題は解決しないのです。親が自分の子どもの将来に責任を持つためにも最低限の負担は必要なのです。お金が払えなくても子どもを幼稚園



から追い出せとはありません。でも親が給食費などを払うようになるまで何度も話しあいます。

先生達の苦労が少しずつ実っていました。半年も経つと、お腹から寄生虫が消え子どもたちの目が輝きだし動きも活き活きしてきました。集団生活にも慣れマナーも言葉使いも良くなつて来ました。遠足に連れて行ってもスラムの子どもだと信じてもらえないほどに変わってきたのです。先生達も「幼児教育ってこんなに素晴らしいの」と驚きと喜び、そして感動の日々です。

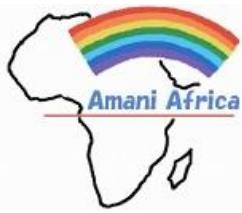


養子にしたリベカちゃんもすっかり娘さんです。ノア君もたくましく育ちました。アフリカには星の数ほどの孤児がいます。今はたったふたりの子どもしか養えないけど、この子ども達がいつの日か一粒の麦から畠いっぱいに実るように自分達の意志をついで素晴らしいアフリカを創ってくれるかもしれません。

民族を、国籍を、血のつながりを超えた家族がいつも一緒に助け合い、どんなに苦しくても希望を忘れないで必ず良き日が訪れる信じて生きています。

部族の対立での争い、食糧不足、極端な貧富の差、学校にいけないことによる読み書きのできない人たち。さらにはエイズのまんえんによりどんどん増える病死者。それでもアフリカには私たちがものの豊かさがゆえに忘れかけた人として生きる知恵、助け合う心があるそうです。そこで日本人は日本で身につけてきた知恵

を出しアフリカの人々と共に働くことでいつの日にかよりよいアフリカをつくり上げる夢をかなえたい。隆雄さんたち家族はそう思っています。そしてできる範囲でいいから自分たちのことを知ってもらいたい。できればいつかあなたたちもアフリカに来て自分達と一緒にアフリカと日本の架け橋になってほしいと願っています。

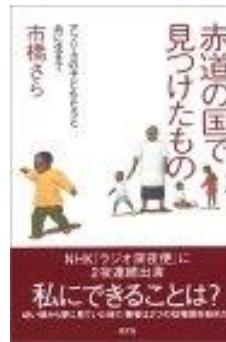


「市橋隆雄さんを
支える会」のロゴです。
Amaniとは
スワヒリ語で平和の意味
赤は赤道
虹は希望のシンボル

「市橋隆雄さんを支える会」は亀山市民と亀山中学同窓生を中心に2000年11月に発足しました。現在では広く亀山市以外の市民の皆さんや世代を超えて約150名の会員を有し会費（年間2,000円）と募金やバザーをつうじてケニヤの市橋さんに全額を支援金として送っています。また国際協力の講演会等を開いています。



2005年9月には会員9名
がケニヤを訪問しピアニ
カを贈呈し現地を実体験
しました。ケニヤツアーは
今後も企画します。
あなたも行ってみません
か?
10日間で約30万円です。



市橋さらさん自身が書かれた本があります。
赤道の国で見つけたもの
アフリカの子供たちと共に生きて
市橋さら(著) 光文社より 価格: **¥1,575**

現地の DVD もあります。
1500 円です。



☆両方とも亀山市東町の市民のショップ
「ねこの館」にあります。

☆スラムの子どもへの個人スポンサー制度もあります。毎月 5,000 円で 3 年間子ども 1 人の学資を支援します。現在、当会の扱いで 8 名のスポンサーがいます。

2006年 国連広報センターより

アフリカにつなぐ虹の架け橋 2007年版

製作発行 市橋隆雄さんを支える会

事務所 〒519-0125

亀山市東町 1-2-22 ねこの館内

連絡先 : 090-8550-8318

Email amani@helen.ee

ムページ

<http://kirakame.sakura.ne.jp/amaniafrica/sasae/>
支援金受付等 郵便振替口座番号
00800-0-41891
口座名称 市橋隆雄さんを支える会